

2025 年度春季大会 開催報告

主催：公益社団法人日本語教育学会

開催日：2025 年 5 月 24 日（土）・25 日（日）

会場：オンライン開催

公益社団法人「日本語教育学会」では、最新の研究と実践の成果を発信・共有し、参加者間の交流およびネットワーキングの促進を目的とした大会を年 2 回（春・秋）開催し、春季大会をオンラインで、秋季大会を対面で実施しています。二つの形式の大会を交互に実施することにより、日本国内外にいる多様な立場や状況にある方々に対し、より柔軟な参加機会を提供することを目指しています。

2025 年度春季大会の有料イベントへの事前参加登録者は 941 名（招待・関係者含む）で、46 都道府県および 6 カ国・地域からの参加がありました。大会期間中は、パネルセッション 2 件、口頭発表 18 件、ポスター発表 13 件が、審査・運営協力員の協力を得て行われました。（詳細は[大会プログラム](#)および[発表要旨](#)をご参照ください。また、[大会予稿集](#)は大会終了 2 週間後の 6 月 9 日より無料でご覧いただけるようになっております。）今大会のテーマは「多様なライフキャリアの形成と日本語教育の接点」でしたが、テーマに関連する発表はもちろんのこと、教育実践、プログラム・教材開発、評価、言語使用や学習過程の分析、実習生・教師・支援者に関する研究など、多様な内容が取り上げられました。



そのほか、大会の 1 日目には、調査研究推進委員会の企画による一般公開プログラム「若者のキャリア形成支援としての日本語教育—自律性・主体的自己決定を支える—」が開催されました。3 名の登壇者によるキャリア支援に関する事例の紹介や課題の提示の後、聴衆からの質問や意見も交えて活発な議論が展開されました。また、「日本語教育研究・実践ネットワーク (Net-J)」に加盟する研究会の紹介ブース（連携協力委員会）、学生・大学院生や、教育・研究活動を始めて間もない方を対象とした「わかばさんいらっしやい」（チャレンジ支援委員会）の時間が設けられ、賛助団体会員が活動紹介・書籍紹介・教材紹介等を行う出展ブースもありました。2 日目には、「JLPT 総合得点と CEFR レベルの対応付け」（国際交流基金日本語試験センター）、及び「日本語教育学会の第 3 次中期計画の骨子について」（日本語教育学会会長および副会長）の説明会があったほか、発表者と参加者、あるいは参加者同士が意見交換を行う場として「交流の部屋」が設けられました。

2025 年度春季大会は、国内外の多くの方々にご参加いただき、盛会のうちに終えることができました。大会委員会では、参加者の方々からお寄せいただいたご意見を参考に、今後の大会の企画運営の改善に努めてまいります。

2025 年度春季大会は、国内外の多くの方々にご参加いただき、盛会のうちに終えることができました。大会委員会では、参加者の方々からお寄せいただいたご意見を参考に、今後の大会の企画運営の改善に努めてまいります。

次回の秋季大会は、2025 年 11 月 22 日（土）・23 日（日）に、富山国際会議場（富山県）にて対面で開催の予定です。

（文責：大会委員会）